ILC グローバル・アライアンス

2009 年次総会議事録

Palais des Congres, Club VIP, Level 3, Porte Malliot

Paris, France

July 5, 2009

【 出 席 者 一 覧 】

■投票メンバー

Dr. Robert Butler（米国）
Mr. Shigeo Morioka（日本）
Dr. Francoise Forette (Chair)（フランス ＜議長＞）
Baroness Sally Greengross（英国）
Dr. Rosy Pereyra （ドミニカ共和国）
Ms. Anjali Raje（インド）
Dr. Monica Ferreira（南アフリカ）
Dr. Lia Daichman（アルゼンチン）
Mr. Jacques Schraven（オランダ）
Dr. Sara Carmel （イスラエル）
Dr.Iva Helmerova （チェコ共和国）《インタビュー終了後》

■非投票メンバー

Dr. Masako Osako (事務局)
Dr. Marie-Anne Brieu（フランス）
Mr. Jean-Claude Salord（フランス）
Dr. Sebastian Kalura（南アフリカ）
Ms. Noreen Siba（英国）
Dr. Hiroshi Shibata（日本）
Ms. Yoko Shido（日本）
Mr. Ger Tielen （オランダ）
Dr. J.J. Hans Meij（オランダ）
Dr. Rudi Westendrop（オランダ）
Ms. Monika Valkova （チェコ共和国）《インタビュー終了後》

■オブザーバー

Dr. John Beard (WHO)
Dr. Alex Kalache (NYAM ニューヨーク医学アカデミー)
Dr. Jack Rowe (コロンビア大学)
Dr. Linda Fried (コロンビア大学)
Ms. Nora O’Brien (ハートフォード財団)
Ms. Mala Manap (ツァオ財団)
Mr. Kevin Perrotte 他 1 名 (Life Star)

◆◇9:00～12:40◆◇

1.　開会の辞：議長

フォレットフランスセンター理事長より、ILC10 センターからの代表を歓迎するとともに、年次総会を開会する旨が告げられた。

2.　2008 年サントドミンゴ年次総会議事録

サントドミンゴ会議の議事録が満場一致で承認された。

3.　ILC 各センター活動報告

ILC センター理事長及び担当者より、各国の活動状況について報告がなされた。
米国―日本―フランス―英国―ドミニカ共和国―インド―アルゼンチン
オランダ―イスラエル―南アフリカ

◆◇13：30～15:15◆◇

4.　新規加盟問題について　（大迫アライアンス事務局長）

新たな基準と構成と今後の展開について活発な議論が行われた。

- シンガポールに関しては、”ILC Singapore” の名称を使用できないため、どのような扱いにするかが協議された。
  その結果、「associate member（準会員）」というようなカテゴリーは特に設けず、今後の推移を見守り判断することとなった。
- 中国の申請については、ILC グローバル・アライアンスの加盟承認基準をどの程度満たしているかを尋ねるために、簡単な質問書を中国の候補団体に送付することを決定した。

5.　チェコ共和国申請団体インタビュー

- Dr. Iva Helmerova と Ms. Monika Valkova にインタビューを行った後、年次総会は、2009 年 7 月 5 日付で ILC チェコ共和国を承認した。
- 年次総会は、Dr. Iva Helmerova と Ms. Monika Valkova に対し、次の文書を６～９ヶ月以内に提出するよう要請した。
  １）初年度の運営計画
  ２）現在の関心の中心である老年医学にとどまらずに、経済問題など更に広範なテーマに拡大するための活動計画。

◆◇15:30～17:30◆◇

6.　常設委員会報告

１）ウェブ委員会（報告：森岡日本センター理事長）

ウェブサイトに関する活動報告とともに、ウェブサイトの維持管理費の応分負担について提案がなされ承認された。

ウェブ委員会は共同理事長と協議の上、適切なアライアンス分担額を協議のうえ決定する予定。

２）国際渉外委員会（報告：グリーングロス英国センター理事長）

European Health/Nutrition report（ヨーロッパの保健・栄養についての報告書）、English –Speaking Union（英語圏連合）等いくつかの国際的取組みについて報告がなされた。

３）財源検討委員会（報告：バトラー米国センター理事長）

＊センター間の共同プロジェクトについて奨励すべきとの提案がなされた。

（例）

・世界都市プロジェに他の都市を追加する可能性

・Alliance for Health and Future（現在、米国、英国、フランス ILC が参加）の主要スポンサーによる規模の拡大計画

＊ILC 各国の基本的な人口統計およびエイジング関連データベースの作成について提案がなされた。

４）プログラム委員会（報告：森岡日本センター理事長）

委員会より以下の事項について年次総会に提案がなされた。

a) 適時の公式声明発表

b)センター共同プロジェクトの推奨（例：世界都市プロジェクト）

c)センターが参加するシンポジウムについての情報交換

（例：ライデン大学主催シンポジウム）

7.　事務局報告：財政問題（報告：大迫アライアンス事務局長）

- 事務局内にファンド担当を設置したらどうかとの意見が数人のメンバーから出された。しかし経済不況下の今、多くのセンターは財源に制約があるため、この問題は次の年次総会に持ち越された。

8.　2010 年年次総会・シンポジウム

- ILC 南アフリカより主催の意向が示された。ただし、年次総会開催のために十分なファンドの入手の可能性が判明する 2009 年 10 月までは確約ができないとの条件付きとなっている。
- ILC 南アフリカが申し出を辞退した場合は、ILC オランダが 2010 年年次総会主催を検討することとなる。
- 2010 年のシンポジウムのテーマについては、開催国の最終確定後に決定する。

9.　その他

＊２つ以上のセンターが関わり、資金源ともなるセンター間共同プロジェクトの機会を確立するためのワーキング・グループ立ち上げが提案された。

＊大迫アライアンス事務局長より、メンバーの義務その他について若干定款の改訂を行う予定であることが報告された。